

JCMA 報告

第 14 回 ISO/TC 195 (建設用機械及び装置) シカゴ国際会議報告

標準部会

1. はじめに

ISO/TC 195 は、建設機械の中、土工機械 (ISO/TC 127)、クレーン (ISO/TC 96) 及び昇降式作業台 (ISO/TC 214) を除く残りの全ての機械の規格化を担当する国際専門委員会であるが、その第 14 回の本委員会及びその作業グループの国際会議が平成 16 年 5 月 11 日～14 日米国シカゴの中心街にある Double Tree Guest Suites の会議室で開催された (写真-1)。

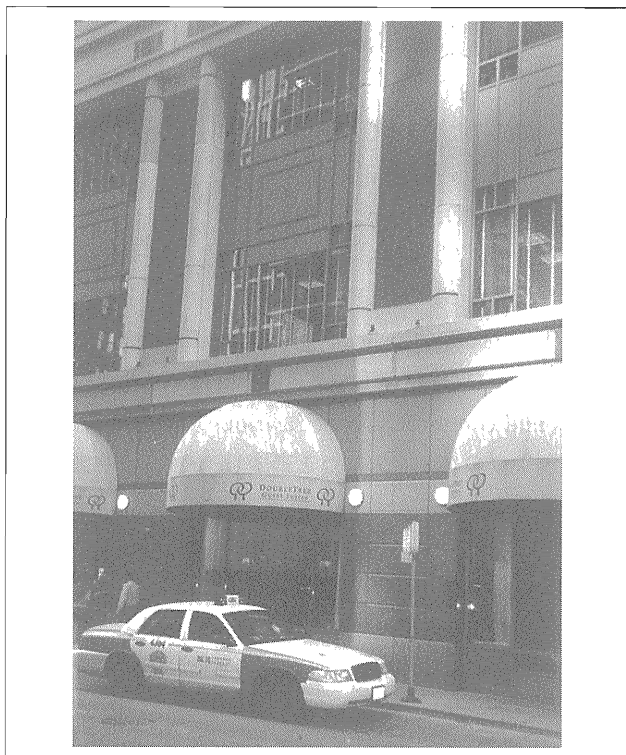


写真-1 国際会議場となった Double Tree Guest Suites (2 階会議室)

P メンバーである日本からは、「コンクリート機械等に関する国際規格共同開発調査」事業 (経済産業省施策) の一環として以下の 5 名が日本代表として出席した。

大村 高慶: TC 195/WG 4 日本主席代表 (国内コンクリート機械関係委員会委員長)

養安 豊彦: TC 195 日本代表 (国内コンクリート破碎機関係委員会委員長)

川合 雄二: TC 195/WG 4 コンビーナ (国内委員会委員; 日本建設機械化協会)

阿部 裕: TC 195 及び WG 7 日本代表 (国内委員会事務局; 日本建設機械化協会)

柴田真理子: TC 195/WG 4 コンビーナ補佐 (日本規格協会コーディネータ)

今回参加の主目的は、前述事業の委員会では日本が起案し、TC 195/WG 4 に提出している 6 件のコンクリート機械関係の規格案に関し、日本がコンビーナとして主導的に審議、検討、調整を進め、その最終段階での仕上げを行うことと、前回提案が不承認となり、日本より再提出している「コンクリートポンプの性能試験方法」及び「環境保全」「資源の再利用化」の観点より、新たにこの事業の追加項目として提出している「破碎機の用語と仕様項目」の 2 件の「新業務項目提案」を説明し、メンバーの理解を得ることであった。

規格案の審議には、やや時間が足りず持ち越しになった案件もあったが、今後の作業スケジュールを明確化して遅れを最小限に抑えることとなった。

2 件の「新業務項目提案」の説明に関しては、特に反対はなく、6 月 17 日期限の投票に前向きな対処を要請した。

2. 会議概要

(1) ISO/TC 195/WG 4 (コンクリート機械関係) 会議

日 時: 5 月 11 日 (午前, 午後), 5 月 12 日 (午前, 午後)

コンビーナ: 川合雄二 (日本)

出席者: ポーランド (2), ドイツ (2), ルーマニア (2), 米国 (6), カナダ (1), 日本 (5), 計 18 名

推進中の 6 件の規格及び 1 件の新業務項目提案 (以下, NWIP) について、報告、討議、検討が行われ、下記合意を得た。

① ISO/FDIS 18650-1 (コンクリートミキサ_1)

2 ヶ月以内に中央事務局より FDIS が配布され、2004 年以内に発行予定。

② ISO/DIS 18650-2 (コンクリートミキサ_2)

2004年6月に中央事務局より発行される予定。米国ではこのDISをベースにした確認試験を行う。

③ ISO/DIS 18651 (内部振動機)

会議の席上ドイツのコメントを織込んだが、さらに日本・米国のコメントを織込んだものを幹事国にて作成、2004年9月15日までに米国のチェックを経て、中央事務局より再発行の予定。

④ ISO/DIS 18652.2 (外部振動機)

日本のコメントを織込み、幹事国にてFDISを作成する。

⑤ ISO/CD 21573-1.2 (コンクリートポンプ_1)

CDへのコメント内容について、米国が5月末までにRecommendationの形に整理し、幹事国はそれをベースにDISを作成、2004年9月15日までに中央事務局に送付する。

⑥ ISO/CD 21592.2 (コンクリート吹付け機)

CDへのコメント内容を審議しつつCDの修正を行った。これをベースに幹事国はDISを作成する(2004年7月15日まで)。

⑦ NWIP (コンクリートポンプ_2) (発表者:大村高慶)

再提案の形で、6月17日投票締切りで提案されているが、今までの経緯・修正点を説明し、承認の目処がついた。

(2) ISO/TC 195 本会議

日 時:5月13日(午前),5月14日(午前,午後)

議 長:Mr. Budny

幹 事:Mr. Roszbiewski

出席者:ポーランド(2),ドイツ(1),ルーマニア(2),スウェーデン(2),米国(10),カナダ(1),日本(5),計23名

幹事国ポーランドの議長Mr. Szymanskiの病欠に伴い、代理出席のMr. Budnyの挨拶の後、Agendaに沿って報告、討議、検討が行われ、下記決議がなされた。

① 各WG(5月12日~13日にワシントンDCで開催されたWG6:Hand-held machinery and equipmentも含め)の議事録を承認した。

② WGのSC化に関する投票結果(N498;4:5で否決)をISOのTCサーバー(LiveLink)に載せる。ただしWG4のSC化について、日本がコンビーナをとることを前提に再提案することの可能性は残している。

③ ISO/DIS 11375-7 "Building construction machinery and equipment-Terms and definitions-Part 7: Road construction and maintenance equipment"

は、設定時からの状況変化に伴い、FDIS発行時に、番号変更とともにタイトルも"Road construction and maintenance equipment-Basic types-Identification and description"に変更する。

④ 日本より提案済みの破碎機に関するNWIP(投票締切り:6月17日,発表者:養安豊彦)は、対象をコンクリートに限定せず,"Mobile crushers"("Mobile concrete crushers"ではなく)とすることを確認し、賛成の得られる見込みとなった。

⑤ 日本より提案済みのコンクリートポンプのテストに関するNWIP(投票締切り:6月17日,発表者:大村高慶)は、特に反対意見もなく、賛成の得られる見込みとなった。

⑥ 米国より提案されたRoad sweeperオペレータの操作・表示のシンボルに関するNWIPは、提案に向けて進める。

⑦ 上記Road sweeperを含めたRoad building and construction equipmentを対象とした共通のシンボル(common symbols standard)も、併行して進める。

⑧ 次回第15回会議を2005年5月12~13日にワルシャワで開催する。

⑨ Joint Working Group(ISO/TC 127 & ISO/TC 195)は、テーマ完了を確認し、解散する。

最後に、Mr. Szymanskiの病の早期回復を祈るとともに今回の会議開催を主催・支援したAEM(Association of Equipment Manufacturers)を含めた米国メンバーの努力に謝意を表し、閉会した。

(3) ISO/TC 195 WG 5 会議

日 時:5月13日(午後)

コンビーナ:G. Piller(ドイツ)

出席者:米国(4),日本(1/川合),ポーランド(1),ドイツ(1),計7名

ISO/DIS 11375-7 Basic types-Identification and description及びISO/WD 15878 Asphalt pavers-Terminology and commercial specificationsの2件の規格について各国よりのコメントにつき審議し、その結果で案文を修正することとなった。

(4) ISO/TC 195 WG 7 会議

日 時:5月13日(午後)

コンビーナ:F. Wenzel(米国)

出席者:米国(6),スウェーデン(1),日本(1/阿部),ポーランド(1),ルーマニア(2),計11名

ISO/WD 19433 Hand guided, walk behind vibratory plates-Terminology and commercial specifications 及び ISO/WD 19452 Hand guided, walk behind vibratory rammers-Terminology and commercial specifications の2件の規格について審議し、結果を Wenzel 氏が取纏め各出席者に配布する。

3. 今後の見通し

各規格とも現在の状況が確認され、次ステップへのスムーズな移行が期待出来る。

WG 4 の SC 化に向けて、そのメリット等も含めて具体的な提案内容を煮詰め、再提案する予定である。

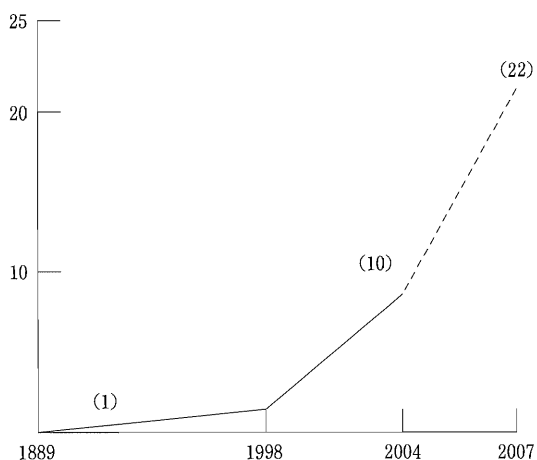
NWIP “Mobile crushers” は、6月17日投票締切りで承認される予定であるが、承認され次第 WG（コンビーナ：養安豊彦氏（予定））としての活動を開始する。

4. その他

必要なメンバーが TC サーバー（LiveLink）へアクセス出来ない、メンバー国の連絡先が不明確等の不備が半明、それら不具合の解消により以後の活動の活発化が図れる。

5. 所見

ISO/TC 195 の国際会議には、日本は 1998 年に初参加したが、当時は図—1 のグラフに示すように制定規格は TR（技術報告書）1 件という低調ぶりであった。



図—1 制定規格

1999 年米国を誘って共に P メンバとなり、道路機械等、停滞していた規格案の検討推進を図るとともに、2000 年より経済産業省の施策「国際規格共同開発調査」の一翼を担って日本発信の「コンクリート機械」関係の規格を積極

的に国際規格化することに努めてきた。

現在推進中の規格案が発行されることが予想される 2007 年では、合計 22 規格となり、更に建設事業の国際化にともない、「国際規格化が遅れている多種建設機械に対する規格制定」、「機械安全、環境保護等社会的ニーズに応えるための規格制定」が予定されており、この分野の活動は非常に活発化してきている。

一方この活動自身を支える幹事国及びこれを支援する体制は従来と全く変わっておらず「既存制定規格の 5 年ごとの見直し」等発行済みの規格のフォローまで考えると、幹事国での作業の増加が規格化の遅れの主因ともなりかねない。

その解決策として、日本から「WG 4（コンクリート機械）、WG 5（道路機械）等、7 以上の規格を有する WG は SC として TC 195 の幹事国での事務作業を SC 幹事国に委ねて省力化し、一方では無駄な工程の排除による早期規格化を図る」を提案しているが、幹事国引受けを志願しているのは日本のみで、他国は、引受けに極めて消極的である。

日本としては、既にコンビーナを務めて業務内容に精通している WG 4（コンクリート機械）について SC 幹事国になることをまず検討し、本年度中の早い時期に幹事国あてに提案する予定である。なお、WG 5（道路機械）の SC 化については、国内関係者の要望の強さ、現コンビーナのドイツの意向及び道路機械に関心の高い米国と意見調整を取りながら次のステップとして考えることとする。

過去の 13 回に及ぶ ISO/TC 195 の国際会議は、いずれも幹事国ポーランドで行われ、今回初めて他国（米国・シカゴ）での開催となった。主催者の AEM（米国建設機械工業会）は、CECE（欧州建設機械工業会）、CEMA（日本建設機械工業会）及び最近では KOCEMA（韓国建設機械工業会）とともに定期的に当該機械の工業会間で国際会



写真—2 ISO/TC 195 本会議会議風景

議 Joint Technical Liaison Meeting を行っているの
出席者の中に互いに知己も多く、忌憚なく話がはずんでい
た。また、米国での開催であるので欧州よりの出席は少な
かったが、欧州メーカの米国駐在員の出席もあり、欧州製
品に基づく代弁者となった。いずれにせよ幹事国ポーラン
ドでの開催だけではなく、異なる場所で行うことも会議の
活性化のうえで必要なことと思われた。

なお、今回の出張では会議前、会議後の時間を利用して
多くの他国の代表者と対話を行ない、今後の活動にとって
有意義な話合いと情報交換ができた。

主なものを以下に列挙する。

- ① 関係代表として出席した ISO/TC 127 委員長との打
合せ (TC 127 と TC 195 の境界線にある道路機械に
関する標準化に関する意見交換)
- ② 米国 TC 195 TAG 委員長ほか米国主要代表者との
日米意見交流 (TC 195 活動の効率化等)
- ③ ドイツ主席代表との打合わせ (TC 195 活動の効率
化)

- ④ ISO/TC 195 幹事との意見交換 (TC 195 活動の効
率化及び各種情報交換)

今回の出張に際しては、標準部会・ISO/TC 195 建設用
機械及び装置委員会の委員長・瀬田幸敏氏より、過去に
ISO/TC 127/SC 3 議長を務められたご経験からあらかじめ
多くのアドバイスを戴くことができたが、WG 4 の議事
進行、米国との事前の協議等大いに参考にさせて頂いた。

また、今回日本からの 2 つの新業務項目の提案 (コンク
リートポンプ第 2 部、破碎機) に関するプレゼンテーショ
ンを行ったが、両委員長 (大村高慶氏、養安豊彦氏) とも
事前準備よろしく PC プロジェクトを駆使して説明され、
今回の会議の圧巻であった。ご尽力に深く敬意を表したい。
更に今回は、財団法人日本規格協会のご好意により、コー
ディネータ (柴田真理子女史) を出張派遣して頂き、会議
中の PC 作業、決議起草委員会への参画ほか、幅広く幹事
業務の支援をして頂き心から感謝する次第です。

(文責：阿部 裕/川合雄二)

移動式クレーン Planning 百科

社団法人日本建設機械化協会機械部会建築生産機械技術委員会移動式クレーン分科会 (石
倉武久分科会長) では、約 2 年間の編集作業を終え標記の図書を刊行しました。

本書は、

- ・ 建築工事計画担当者、
- ・ 工事担当者、
- ・ 作業実施担当者、

にとって、短期間に移動式クレーン作業の要点を習得するのに最適な書物です。担当する建
築工事に適合する移動式クレーンをより迅速に、より効果に選定・運用する際に大いに活
用下さい。

A 4 判 159 頁 定価 2,000 円 (消費税別) 送料 400 円

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 (機械振興会館) Tel. 03(3433)1501 Fax. 03(3432)0289